

変化を恐れず教育を前進させ続け、 人生を築くデザイン力を育む

熊本県 ^{うまき}宇城市教育委員会 教育長 **平岡和徳**

熊本県宇城市は、2019年7月、ベネッセと包括連携協定を結び、ICT教育や英語教育等の充実を図っています。高校サッカー界の名将として活躍しながら教育行政に身を投じた平岡和徳教育長に、故郷の人づくりに懸ける思いを聞きました。

ひらおか・かずのり 前職の熊本県立大津高校教諭時代は、サッカー部を全国大会の常連校に育て、約50人のプロサッカー選手を輩出。2017年度から現職。

24時間をデザインする力が 自らの人生を築く力になる

私は、故郷である本市の教育長を拝命するまで県立高校の教員としてサッカー部の監督を務め、スポーツを通じた人づくりに尽力してきました。その指導で大切にしてきたのは、24時間をデザインする力を生徒に育むことです。まず、部活動の練習時間は1日100分間とし、居残り練習を禁止しました。限られた時間内で何をすべきか生徒が自ら考え、行動できるようにすることがねらいです。さらに、食事や睡眠のための時間や、学習したり家族と過ごしたりする時間を確保する目的もありました。

100分間としたのは、サッカーの試合が90分間だからです。試合と同程度の時間、毎回全力で練習すれば、試合でも集中力を維持できるようになります。また、試合では、アディショナルタイム*にゴールが決まって勝つことも珍しくありません。練習で残り5分、3分と追い込みながらやり切ることで、試合でも最後まで諦めない心が磨かれていきます。

そうした練習を積み重ねていけば、

普段の生活でも自分なりの目標を持ち、達成に向けて時間の使い方を考え、諦めずに努力するようになりま

す。それは、人生を築く力そのものです。そうした力を本市の子どもたちにも育みたいという思いが、様々な施策の根幹にあります。

学校・家庭・地域の連携で、 夢を目指す子どもを支える

24時間をデザインする力を育成する上でポイントとなるのは、夢の存在です。夢があってこそ進むべき道を見だし、自分の夢だからこそ夢中になって取り組みます。そこで、子どもができるだけ多くの「本物」に触れられるよう、本市では国際大会の誘致、著名人の講演やコンサートの開催等に力を入れています。本物が放つオーラは子どもを引きつけ、「あの人のようになりたい」という憧れが夢につながっていきます。

そして、子どもが自ら夢に向かって進むために、環境を整え、可能性の幅を広げる支援をしていくことこそ、教育の役割だと考えています。ここで重要となるのが、学校・地域・家庭の連携です。教育の流れをつく

る源泉は家庭にあります。家庭で補えない部分は学校や地域という社会システムが育てていくからです。

本市では、2017年度から全中学校区に小中一貫教育を導入し、学校が主体的に学校運営協議会を設置する「熊本版コミュニティ・スクール」と一体的に進めています。各小・中学校に小中一貫教育コーディネーター担当者を配置し、小・中学校・地域・保護者が目標を共有し、協力して教育を推進する体制を整えました。本市には、地域との会合を50年以上続けている小学校もあり、地域と学校が連携する風土が根づいています。本制度を機に、地域の特色に応じた学校づくりがより推進されることを期待しています。

タブレット端末を活用し、 子どもや家庭との信頼関係を築く

子どもが自ら学びをデザインできるようにするため、ICT教育にも力を入れています。中学校には1人1台のタブレット端末を既に導入し、今後、小学校にも段階的に配備する計画です。学習支援ソフトウェアを導入し、ICT支援員が各小・中学校を

* サッカーの専門用語。試合の前・後半それぞれの規定時間の後に追加される時間のことで、競技者の交代、負傷者の搬出などにより空費された時間を加算する。



定期的に訪問して、ICT機器の活用や教員の教材作成を支援する体制も整えました。

ICT機器は、子どもの主体的・対話的で深い学びを目指す教員の授業改善を支援するほか、子どもと教員の信頼関係を築くツールにもなると考えています。例えば、教員は机間指導などで子どもの状態を把握しますが、その内容は指導経験による部分もありました。タブレット端末があれば、子どもが書いた内容は教員用端末にすぐに表示され、どの教員も子どもの状態を見逃さずに把握できます。教員から適切な支援を受けられれば、子どもは「先生がいつも見てくれている」という安心感を持てるでしょう。さらに、タブレット端末を家庭に持ち帰れるようにすれば、教員は家庭学習の様子をより詳細に把握できるので、家庭と直接つながるツールとしても活用できます。

英語教育も力を入れていることの1つです。本市では、2006年度に国際理解教育特区（現教育課程特例校）の指定を受け、英語によるコミュニケーションを学ぶ「英会話科」を小学1年生から設けています。その成果の可視化と、新学習指導要領での英語4技能のさらなる重視を踏まえ、スコア型英語4技能検定を小学5年生～中学3年生が受検することになりました。5年間継続して受検することにより、子どもは自身の成長を実感できますし、小中一貫教育でも小・中が連携した英語の授業改善に生かれます。いずれの事業もベネッセとの包括連携協定の下で推進し、本市の教育の流れを変える大きなポイントにしたいと考えています。

変化の先に進化がある 大切なのは学び続けること

子どもを支える教員が疲弊しない

ことも重要です。本市でも働き方改革を進めており、長期休業中の学校閉庁日や週1回の定時退勤日、部活動の休養日の設定、統合型校務支援システムの全校整備等を実施しています。それらを活用し、教員が目標達成に向けて24時間をデザインする姿が、子どもの手本になると考えています。

「今まで通り」は後退であり、進化は変化の先にあります。よりよい未来を築くためには、「今」を変えることが必要です。サッカーのフランス代表チームの元監督は、「学ぶことをやめたら、教えることもやめなければならない」と言いました。私も、全国の先進校や有識者から様々な話を聞き、本市で活用できる情報を自分のフィルターを通して伝えるよう心がけています。私たちは子どもの未来にかかわっている。教員も地域も保護者もその自覚を持って子どもを育てよう、これからも施策を推進していきます。

熊本市宇城市 プロフィール



◎ 2005年、5つの町が合併して誕生。九州のほぼ中心に位置するため、熊本市や九州各地へのアクセスがよいという都市機能を持ちつつ、田園風景と自然景観にも恵まれる。世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の1つである三角西港を有する。人口 約5万9,000人 面積 約189km² 市立学校数 小学校13校、中学校5校 児童・生徒数 約4,700人 電話 0964-32-1111 (代表) URL <https://www.city.uki.kumamoto.jp/q/list/114.html>